

R5 重点事業 脱炭素社会に向けたバイオマスプラスチック利用促進事業について

～お米づくりから派生するゼロカーボンへの挑戦～

1. 目的

本市は、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を目指し、カーボンニュートラルであるバイオマスプラスチックの利用を推進しています。

今年度、「新潟市の資源“お米”」を使ったごみ袋（バイオマス袋）を製造するため、ごみ袋の原料となるお米（資源米）を江南区（横越地区）および西蒲区（潟東地区）で栽培しています。

本事業は、本市の資源（お米）を使ったごみ袋で、温室効果ガスや石油系プラスチックの抑制につながる事を、市民の一人ひとりの行動により実現している実感＝“自分事”につながる象徴的な施策を通じて発信していくことを目的に、業務を委託するもの。

2. 業務概要

① 契約相手

バイオマスレジングループ共同企業体



※ 令和5年2月、新潟市と株式会社バイオマスレジホールディングスは、「バイオマスプラスチック」を活用したゼロカーボンシティの実現に向けた連携協定を締結

② 契約金額

4,800万円（税込）

③ 業務内容

- 新潟市産の米を原料に使用した、指定ごみ袋（20L）の製造 500万枚
⇒ 低密度バイオポリエチレン、新潟市産のお米10%含有
- 市民への広報・啓発
⇒ 稲刈りイベント、環境講座、メディアキャラバン、サイチョプレスほか

④ 基本スキーム



3. スケジュール

	指定ごみ袋の製造	市民への広報・啓発
6月～9月	①資源米生産（折衷直播） 稲刈り（9月上旬）	<ul style="list-style-type: none"> ・潟東小学校との稲刈りイベント ・環境講座、工場見学（南魚沼） ・新潟日報
10～11月	②バイオプラ樹脂製造（ライスレジン）	
12月～3月	③ごみ袋製造 （フィルム製膜、印刷、納品）	



4. 袋のデザイン（案）



結んだときに稲が立つデザイン
米から製造されている事のPR

- 新潟市内で生産された「お米」からごみ袋を製造する（資源循環）
- 児童が刈り取ったお米が「新潟市のごみ袋」となる
- 「田園型環境都市にいがた」のPR
- 「プラスチック資源循環促進法」の周知（市民のプラ削減意識）

企業広告（ロゴ）を予定。民間10社程度